

PRESS RELEASE

日本取引所グループ プレスリリース



株式会社日本取引所グループ
〒103-8224 東京都中央区日本橋兜町2番1号
Tel : 03-3666-1361(代表)
JAPAN EXCHANGE GROUP, INC.
2-1, Nihonbashi-Kabuto-cho, Chuo-ku,
Tokyo 103-8224, Japan
Tel : +81-3-3666-1361

URL: <http://www.jpx.co.jp/>

2015年10月7日

各 位

株式会社東京証券取引所

2015年度企業価値向上表彰に係るファイナリストの選定について

この度、当取引所が実施する企業価値向上表彰において、「上場会社表彰選定委員会」（座長：一橋大学大学院・伊藤邦雄特任教授）の審議の結果、2015年度の企業価値向上表彰のファイナリストとして次の4社を選定しましたので、お知らせいたします。

「上場会社表彰選定委員会」の審議では、当該4社は、高い企業価値の向上を実現していることに加え、資本コストを上回る企業価値の創造を目指す「企業価値向上経営」を高いレベルで実践していると認められました。

なお、今後、各社の経営層に対するインタビューや投資家からの意見募集を行い、2016年1月を目途に大賞を決定する予定です。

【ファイナリストとして選定した上場会社】

会社名	コード	業種名	市場区分
日本ハム株式会社	2282	食料品	市場第一部
旭化成株式会社	3407	化学	市場第一部
カシオ計算機株式会社	6952	電気機器	市場第一部
ピジョン株式会社	7956	その他製品	市場第一部

(証券コード順に記載)

【参考】企業価値向上表彰について

スチュワードシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードの策定・適用など、日本企業に対して、中長期的な視点に立った企業価値の向上を求める声が高まっています。企業が自らの企業価値を高めていくためには、自社の「資本コスト」を認識し、それを上回る資本生産性を実現していくことが必要になります。

企業価値向上表彰は、資本コストをはじめとする投資者の視点を強く意識した経営を実践し、高い企業価値の向上を実現している上場会社を表彰する取組みです。

本表彰の選定は、3名の有識者で構成される「上場会社表彰選定委員会」の審議を通じ、次表のプロセスにより進められます。本表彰の概要や選定経過等については、特設ウェブサイト (<http://ps.nikkei.co.jp/tseaward2015/>) でもご紹介しています。

以 上

<企業価値向上表彰の選定プロセス>

実施時期	選定方法・選定プロセス
本年 6 月 (実施済)	<p>●エクイティスプレッド (ROE-自己資本コスト) に基づくスクリーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全上場会社（約 3,500 社）の中から、過去数年間の「エクイティ・スプレッド」の平均値または成長率が良好な上場会社 400 社を選定。
本年 7 月 (実施済)	<p>●1次選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニングにより選定された 400 社に対して、資本コストの認識などの基本的な経営態勢を確認する簡易なアンケート調査を実施。 ・所定の算式により各社の資本コスト (WACC) や企業価値の創出額を算出し、資本コストを上回る企業価値の創出に優れた成果をあげている上場会社 50 社を選定。
本年 8 月～ 9 月 (実施済)	<p>●2次選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 次選抜により選定された 50 社に対して、企業価値の向上を実現するための経営の実践状況を確認する詳細なアンケート調査を実施。 ・アンケートの回答などをもとに、上場会社表彰選定委員会がファイナリストを選定。
本日の 発表内容	<p>●前掲の 4 社をファイナリストとして選定</p>
来年 1 月 (予定)	<p>●大賞の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上場会社表彰選定委員会がファイナリストの経営陣に対してインタビューを実施。あわせて広く投資家から意見を募集。 ・インタビューの結果などをもとに、上場会社表彰選定委員会が大賞会社 1 社を決定。

【本件に関するお問い合わせ先】

東京証券取引所 上場部内 上場会社表彰選定委員会事務局

電話 050-3377-7012 (直通)

(参考)

2015年度企業価値向上表彰 ファイナリストの選定の視点

2015年10月
上場会社表彰選定委員会事務局

上場会社表彰選定委員会では、企業価値を向上させる経営手法は多様であることを十分に認識しつつ、経済付加価値創造の4要素において一般的に「ベストプラクティス」と考えられる取組みに基づいて、ファイナリストの選定を行いました。

選定委員会がファイナリストを選定するにあたり重視した視点は以下のとおりです。

1. 資本コストの算出・認識

企業価値を向上させるための資本政策や投資採択などの経営判断を行うに当たっては、自社の資本コストに係る認識が不可欠であると考えました。

そのため、自社の資本コストの水準を認識していることを選定の必須条件としました。

2. 経営上の枠組みと資本コストを意識した経営の実践

企業価値向上を実現する経営が行われるためには、以下のような経営上の枠組みが導入・整備され、それらの枠組みの中で、自社の資本コストを意識した経営が実践されていることが重要であると考えました。

(1) 経営目標の立案

- 中期経営計画（又はそれに準じる複数年度に渡る計画を含む）が策定されているか
- 資本生産性を意識した経営指標（ROE、ROIC等）が活用されているか
- 自社の最適資本構成のイメージを持ち、それが社内で共有されているか

(2) 経営管理制度の導入・整備

- 新規投資の採択や既存投資からの撤退に係る意思決定を行う際の判断基準が策定されているか
- 投資採択・撤退に係る判断基準に資本コストの概念が組み込まれているか

(3) 評価報酬体系の導入・整備

- 金銭報酬が業績と一定程度連動しているか
- 業績評価に用いる管理指標に資本コストの概念が組み込まれているか

(4) 企業価値向上に向けた啓蒙活動の推進

- 自社の経営目標や資本コストの概念について社内で共有が図られているか（社内研修の実施等）

上記の各項目に関して評価を行ううえでは、例えば「株主から付託された資金に関する収益目標（R O E 等）が資本コストの水準を踏まえて設定されているか」や「資本コストを上回るリターンの獲得を目指す投資採択基準が活用されているか」など、投資家から付託された資金を有効に活用する経営態勢が整備・運用されているか否かに着眼して、審議を行いました。

3. その他事項

上記 2 までの方法に基づいて選抜された上場会社について、企業価値の創出額、過去の業績推移などを総合的に勘案し、ファイナリスト（大賞候補会社）を選定しました。

以上